

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

ワークショップ 16	
企画名	多職種で考える！患者さんに伝わる伝え方～ヘルスコミュニケーション～
日時	2017年5月13日(土) 16:45～18:15
会場	第4会場 (サンポートホール高松 ホール棟 6F 61会議室)
企画責任者	柴田 綾子 (JMA・Junior Doctors Network、淀川キリスト教病院)
定員	54名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 患者が自分の病態や治療を十分に理解できるような情報提供の仕方を学ぶ2. 医学知識や専門用語が分からない人に対して、医療情報を提供できるようになる3. 患者のヘルスリテラシーに応じた医療情報の提供ができるようになる <p>【概要】</p> <p>病気の説明や検査の説明、あなたはどのように患者に話していますか？ あなたが話したことは、どのくらい患者に理解されていますか？ 説明したはずなのに、患者が「理解していない」「覚えていない」ことはありませんか？ 今、医療者と患者がエビデンスを共有して一緒に治療方針を決定する「シェアードディシジョンメイキング（共有意思決定）」の重要性が叫ばれています。しかし難しい医療情報を患者も理解できるよう、かみ砕いて伝えるのは簡単なことではありません。 このワークショップでは患者に伝わる「医療情報の伝え方」を学びます。</p> <p>「風邪診療の説明」「生活習慣病の説明」を取り上げ、多職種によるグループワークを通して患者がより理解しやすい情報提供のあり方を考えます。</p> <p>膨大な情報の中で、大切な事をどのように伝えるか。それぞれの説明について、提供する医学的内容を取捨選択し、情報の優先度を考え、文章の配置や記述の方法、実際の話し方について多職種で話し合います。その後、作成した文章を元にロールプレイを行い、自分の説明が相手にどれくらい伝わったかを実際に評価し、ノンバーバルコミュニケーションを含めてフィードバックを行います。</p> <p>「説明をした＝伝わった」ではありません。 「話をした＝理解した」でもありません。</p> <p>このWSを通して貴方の「伝えるスキル」をアップさせ、明日からの診療で、さらに理解してもらえる「伝え方」を習得しましょう。</p>	